



シリーズ

小豆島の
多様な担い手

オリーブ栽培、高品質にこだわり

～土庄町 平林 直樹さん 麻美さん～



家族経営協定調印式



今回登場いただくのは、オリーブを栽培している平林さん御夫婦です。直樹さんは、地元のオリーブ企業に8年間勤務し、オリーブの栽培管理や採油に関する知識、技術を学びました。

仕事に携わる中で、農業に楽しさとやりがいを感じるようになり、「オリーブの生産で生計を立てたい」との思いが強まった結果、平成30年4月に、祖父や両親から引き継いだ園地で、オリーブ農家として就農しました。

大規模なオリーブ生産者が、生産から加工販売まで取り組む中、直樹さんは、「果実生産だけで十分な利益を確保することで、新規就農者が参入しやすいモデルケースになりたい」と目標を立て、現在は、2.5haまで拡大した園地を夫婦で管理しています。また、「ミッション」、「ルッカ」等の主要品種以外にも様々な品種を栽培中で、それぞれの特性や栽培方法を研究しながら、除草剤を含む農薬を極力使わない草生栽培を実践しています。

園地の木を一本一本見て回りながら、変化を丁寧に確認する直樹さんは、「長期的な視点で土づくりに力を入れることで、オリーブにあった生育環境を整えて、果実の品質や量をさらに高めたい」と語ってくれました。

繁忙期の労働力確保が課題とのことですが、オリーブ産地小豆島の新たな経営の取組みとなることを期待しています。



「自分で作る
喜び」を感じて!

農業の魅力伝え、関心を持ってもらうための食農活動



普及センターでは、地元の農家グループの皆様と連携・協力し、次世代を担う若者や子どもたちが、農業体験や料理体験を通じて、私たちの大切な「食」を支える様々なかたちの「農業活動」に関心を持ち、学んでもらうことを目的に、食農活動の推進に取り組んでいます。

● 農業の大切さ・楽しさを子どもたちに

JA小豆青壮年部

JA小豆青壮年部は、管内の担い手として活躍される青壮年農業者ら65名で構成され、研修会の開催など各種の活動を通じて、島の農業の活性化に取り組まれています。

活動の中で特に力を入れているのが「食育」、「花育」です。スモモ(7月)、メロン(8月)、アスパラガス(9月)の収穫体験や、ランキュラスのフラワーアレンジメント(3月)と多彩で、メロンは80人以上の参加もある大イベントです。



メロンの収穫体験

収穫したものはその場で試食するだけでなく、お土産として自宅に持ち帰ってもらい、家族との会話の中で地元の農業を知ってもらうことも狙いの一つです。

かつて学んでいた電照ギクがアスパラガスやランキュラスに替わるなど、姿を変えゆく島の農業と共に食育も変わってきましたが、「子どもたちに島の農業を知ってもらいたい」との熱い思いを胸に取り組んでいます。



フラワーアレンジメント

● 地元の農畜産物を知ってもらいたい

土庄町地産地消推進協議会

土庄町地産地消推進協議会では、野菜(平成30年度、3品目)の収穫体験や田植え、地元で穫れた農畜産物(同、4品目)を学校給食として町内小学生に供給するなど、幅広い地産地消推進活動を行っています。

収穫体験の例として、毎年、小学校低学年生を対象にタマネギ(6月)、ジャガイモ(1月)を行っています。自分の手で土を除けながら、その作物特有の臭いや手触りを感じながら掘り取るなどの経験は、きっと記憶に残る楽しい思い出になるはずです。



タマネギの収穫体験

また、学校給食の例として毎年1回、地元の小豆島オリーブ牛を町内の幼稚園、小学校、中学校に供給しています。生産農家と連携し、オリーブ牛の誕生について話すなど他地域にはなかなかできない取り組みで、地元農畜産物の美味しさ、素晴らしさをしっかりと伝えています。



● 稲作を通じ地域農業の重要性を体験

東條地域農業集団

小豆島町安田地区の東條地域農業集団では、子どもたちに地域の農業や環境に関心を持ってもらうため、地域内の幼稚園及び小学校と連携し、田植え体験を実施しています。

多くの子どもは、初めての田植え体験で最初は戸惑っていましたが、だんだん慣れてきた様子で田植えの大変さを理解する貴重な活動となっています。



田植え体験



地域の河川での生物調査

また、子どもたちが田植えした稲は秋に収穫するとともに、おはぎを作ったり餅つきなどを行い、収穫の喜びとあわせて米のおいしさを感じています。

さらに、環境保全の取り組みとして、地域内を流れる河川などでの生物調査を通じて、お米の生産に重要な地域の環境について子どもたち自らが学習する場ともなっています。

● 「伝えまい、作りまい、島の味」

小豆郡生活研究グループ

小豆郡生活研究グループでは、平成20年度から毎年、小豆島内の幼稚園等を対象に、オリーブや島ハモ等の島ならではの食材を使った新しい島の味レシピや、郷土料理を使った食育活動を続けています。

料理体験を通じて、毎日調理をしてくれる方への感謝の気持ちや、地域の伝統料理を学び、食材を通じた農業への興味を深めてもらえるよう取り組んでいます。



小豆島の女峰で
苺大福づくり



島鱧ウイナー入りロング巻き寿司に挑戦!



第40回香川県野菜立毛品評会

香川県農政水産部長賞 関利武氏(土庄町)

令和元年6月19日、高松市のザ・切尔西(マツノイパレス)で開催された第40回香川県野菜立毛品評会(ナバナ部門)において、土庄町の関利武氏が香川県農政水産部長賞を受賞されました。



1月どりナバナの立毛状況(草勢、花蕾品質、病害虫発生状況、除草、肥培管理、排水対策など)と、10a当たりの販売数量が高く評価されたものです。



オリーブ牛の魅力を県内外へ発信

小豆島オリーブ牛研究会

オリーブ牛のブランド力の強化を図るため、7月20日に小豆島の玄関口である土庄港で、恒例の試食キャンペーンを開催しました。

瀬戸内国際芸術祭2019夏会期の開催期間中であり、国内のみならず海外からの多くの観光客で賑わい、絶好のPR機会となりました。



管内の肥育農家は3戸と少ないですが、オリーブ牛への期待感から黒毛和種の飼養頭数が増えており、平成30年度の出荷頭数は145頭と前年度を上回り、順調に伸びています。

農作業安全

秋にかけては、水稻の収穫作業など農業機械を使用することが多くなります。特に、コンバインは、年に1回しか使用しない場合があることから、農作業事故発生の危険性もあり、改めて農作業安全確認への取り組みをお願いします。



- 農作業安全に向けた「声かけ」を実施しましょう。
- 農業機械の日常的・定期的な整備・点検を行いましょう。
- コンバインなどに巻き込まれないよう安全な服装で作業を行いましょう。



「ヒヤリ」としたり、「ハット」とした時は、「今回はたまたま事故につながらなかっただけ」であり、重大な事故につながった可能性があったと考え、次の作業からは「ヒヤリ」、「ハット」がないようにその原因や要因を取り除き、事故を起こさない農作業に取り組みましょう。